

vol.
611

Plus ultra!!



公益社団法人郡山青年会議所 2023年度スローガン

Challenge a new era, and change the future!

～新しい時代に挑戦しよう、私たちが夢描く最高の未来へ～



(公社)郡山青年会議所

二〇二二年度卒業式

十二月九日(土)、郡山ビューホテル四階パラスイートにて二〇二二年度卒業式が開催されました。

芝田 銀平理事長、湯浅 大郎OB会会長から七名の卒業生へ今後のご活躍へのエールや、これまでの運動・活動への労いの言葉が贈られました。

新入会員渾身の設えがあり、卒業生の思い出や今までの活躍を振り返りながら新入会員の安藤礼重君が送辞を読み上げられ、卒業生もご自身への送辞をお楽しみいただきました。答辞では七名の卒業生から現役メンバーへ向けて、自身が経験してきた良かったこと、苦労してきたこと、本当はやりたかったができなかったことなど様々な経験を踏まえて激励のお言葉が贈られました。

その後、新入会員を中心にオープニングアトラクション、メインアトラクションが行われました。連日連夜卒業生への想いを込め練習を重ねたアトラクションは大成功し、会場は拍手の渦に包まれました。最後は卒業生の久保田雄大君による卒業生代表挨拶にて、終始和やかな雰囲気のまま閉会となりました。

本年ご卒業されました七名のご卒業生の皆様、新田 義幸君、久保田 雄大君、矢吹 瞬君、笠間 寛君、中嶋 拓歩君、紀乃 知佳君、小林 聖君、改めてご卒業おめでとうございます。



2023年度 卒業生あいさつ

新しいステージでのご活躍を期待しております。



新田 義幸

すべての出会いに感謝

私は二〇二五年にこの郡山青年会議所に入会し九年間活動させていた頂きました。入会当初は何もわからなままJ.C.の事業に参加していただきました。参加するたびに戸惑いと不安を感じつつも同期メンバーの支えや当時の総務スタッフのご指導のもと最初の一年間を過ごさせていただきました。J.C.の魅力は職種や経歴など関係なく同じ目的に向かい活動することで多様な価値観や考え方を学べることだと思えます。自分では考えつかないようなアドバイスや意見をもらうことで見識を広げられたと思います。

また青年会議所は単年度制であるためその年で立場や担いが変わります。私もLOM委員長を始め福島ブロック、東北地区、日本本会と出向の機会をいただきました。様々な経験をさせていただけました。当時の先輩から「できるかできないか!」だと背中を押していただきたんとかやつてこれたのかなと感じております。その中で多くの出会いがあり、たくさんの経験や学びが私の財産であり成長の糧になっていっていると思えます。卒業してから学んだ経験を次のステップに活かしていきたいと思えます。最後に九年間という長い期間、支えてくださり、共に歩んでくれた皆様に心より感謝申し上げます。郡山J.C.での経験は私の一生の宝物となり、これからもその価値を胸に、新たな挑戦に向かって邁進してまいります。ありがとうございます。



久保田 雄大

感謝と御礼

私は二〇一七年に八年間勤めていたIT企業を退職後、東京から地元である郡山に戻り、翌年に郡山青年会議所に入会しました。入会当初、気概と覚悟を持って青年会議所運動に取り組む活躍されているメンバーの姿を目の当たりにし、心を動かされたことを今でも覚えています。そこから立ち止まることなく歩み続けた、6年間のJ.C.ライフ。大変なこともたくさんありましたが、改めて思い返してみると辛かったことも含めて良い思い出として心に刻まれていくような気がします。そしてLOMメンバーや諸先輩方、その年々に出会う同志から多くの学びや機会をいただき経験を積むことで、自身の視野が何倍にも広がったと感じております。J.C.運動・活動を通して関わった全ての方々には感謝の想いで一杯です。

青年会議所は、地域をより良くするために志を高く持ち活動している仲間との出会い、そして多くの成長の機会がある素晴らしい組織です。現役メンバーの皆様においては、自らの意志で前向きにその機会を掴んでいたのだくとともに、その裏で支えていただいている会社や家族への感謝の気持ちも常に忘れずに、青年会議所運動に邁進していただくことを期待します。

結びに、卒業後は郡山青年会議所OBの一員として、更なる飛躍を目指し全力で邁進していく事をお誓い申し上げます。ありがとうございます。



矢吹 瞬

感謝、そしてこれからへ

私が郡山青年会議所に入会したのは二〇一八年でした。それまで「J.C.」青年会議所という言葉も聞いたことが無い状況で入会を決め、不安と期待が入り混じった感情だったのをハッキリと覚えています。最初は総務委員会に配属され、正直に言うとう戸惑うことも多くありました。なんとなく、ぼんやりと取り組んでいた自分もいました。そんな中各種設営や様々な事業に触れ、何よりメンバー、同期にも恵まれ、まずはやってみようというスイッチが入ったのがこの時でした。

活動は六年間と決して長くはない期間でしたが、その中で、理事、常任理事、そして専務理事と様々な役職を経験させていただきました。J.C.の面白いところは、取り組めば取り組むほど様々な経験を得られ、そして様々な方と出会えることだと思っています。入会しなければ経験できなかったことが多くありました。多くの失敗もしました。その度にJ.C.で出会った先輩や仲間のおかげで乗り越えた。私の中のJ.C.は入会しなければ得られなかったものが存分に詰まった、かけがえのない六年間となりました。入会動機を聞かれると胸を張って答えられるようなものではないかもしれませんが、この言葉は胸を張って言えます。

「郡山青年会議所に入会してよかった」
ここからの人生が本番であり、郡山青年会議所で得た様々な経験や出会いを胸に、郡山青年会議所に係わった者として恥ずかしくないよう邁進して参ります。支えてくださり、たすすべての皆様、本当にありがとうございます。そして、これからもよろしくお願いたします。

感謝



笠間 寛

二〇二二年に郡山青年会議所に入会し三年間活動させていただきました。

当初自分にはまだ早いと思い、入会するつもりは微塵もありませんでしたが、仕事面でのご恩もあり、入会させていただくことになりました。入会二年目の総務委員会では慣れない決まり事に戸惑うこともありましたが、当時のスタッフの方々に戸惑うことも優しくご指導いただいたことで青年会議所の目的など理解することが出来ましたし、同期との絆を感じることが出来ました。

二年目以降も入会しなければ得られることのできなかった数多くの経験や、多くの人との出会いを通してわずかでも自分の成長につながったのではないかと感じます。特に二年目三年目の広報委員会では各事業の内容を広報という立場から全体的に見ることが出来ました。なかでも久米賞百合子賞では、今の中学生が思っていること、考えていることを感じるきっかけになったので、そこからまた次の事業へのきっかけを作ることができると感じました。

私は三年という短い間でしたが、長く続けることが出来たらより多くの仲間との活動と経験を積むことが出来、物事の捉え方や価値観、多様性など様々なことを学ぶことが出来たと思います。

そして、入会をしなければお会いすることもできなかった諸先輩方やメンバーとご縁が繋がる素晴らしい団体だと感じました。

三年を通して私の活動は多く出来たとはいえませんが、ごをとつても助けて頂いた記憶しかありません。青年会議所での活動・運動・経験をを通して、LOMの皆様をはじめ諸先輩方や多くの方々との出会い、そして仲間助けられた経験を今度は助ける側になれるようより一層精進していきたいと思えます。

三年間本当にお世話になりました。ありがとうございました。

卒業生挨拶



中嶋 拓歩

私は二〇二二年に郡山青年会議所に入会し、三年間活動させていただきました。今改めて振り返ると本当にあつという間の三年間でした。

青年会議所の存在や活動をほとんど知らないまま入会した二年目。右も左もわからずに同期の仲間とただがむしやりに活動していく中で、少しずつ組織の事や運動活動の本質に気付かされ、またコロナ禍で例年とは違う点多々ある中で都度臨機応変に対応していく先輩たちの偉大さに衝撃を受けたことを覚えています。

会員開発委員会に所属させていただいた二年目。フォロワーメンバーになり、総務スタッフや同期以外のメンバーとの交流も増えました。またブロックに向向させていた他LOMの方々との交流が増えたことと見聞が広がりました。

そして卒業年でもある三年目。初めて理事を任せ、事務局局長としてLOMを見ることで、OBの先輩方との交流も増え、さらに運動活動への理解を深めることが出来ました。

今、三年間を振り返って間違いなく言えることは、入会前の自分より成長できたということです。郡山青年会議所に入会しなければ、今の自分は間違いなく無いと断言できませんし、苦しみ、悩み、大変なことも沢山ありましたが、ここでしか得られない経験や学びが確かにありました。ここでしか得られない経験や学びが確かにありましたし、同期をはじめとする仲間との絆は私にとってかけがえのない宝物になりました。その証拠に入会当初は三年で十分と思っていた私が、今少しの物足りなさや大きな寂しさを抱えているのですから。青年会議所での活動は卒業しますが、JCで得た経験や学び、そして絆はこれから先の私の人生の宝物です。卒業しても消えることはありません。OBとしてその名に恥じぬ姿勢で仕事に、地域に向き合い、これからも全力で取り組むことを約束し、私からの卒業生挨拶とさせていただきます。

三年間でいただいた全ての「縁」に深く感謝いたします。本当にありがとうございました。

JC愛



紀乃 知佳

二〇二二年度入会、たった二年の本当に短いJCライフでした。

たった二年の経験では、人前で立派に挨拶ができるほどの成長はできておりませんが、JCと出会ってわたしは変わったと思っっています。たくさん仲間と出会い、たくさんさんの機会を得て多くを学び、入会前よりも広い視野を持つことができ、意識が変わりました。

このまちに住まい子育てをしていたにも関わらず、入会前のわたしには地域の課題について考える機会も意識もありませんでした。JCに入会して気づきや学びを得る機会を持たなければ子育て世代としての責任にすら気付かず、ただ年を重ねてしまっただけだと思えます。

わたしはこの組織と出会い、このまちを愛し思いをもつて活動をしている大人がこんなになくさんいるということを知りました。二年目、持続可能な組織開発委員会に所属し、この組織を持続可能にしていくために真剣に会議をしました。時代が変わり世の中が変わりひとが変わっていく中でも、変わらないのは組織の理念です。先輩方から引き継がれてきた組織の根源である「想い」を大切に今後はOGとしてこのまちの未来のために行動し続けます。このまちを思い今日まで活動を繋いでくださった先輩方とこれから共に明るい豊かな社会の実現にむけて歩んでいく同志に尊敬と感謝の念をたくさん込めて「挨拶とさせていただきます。ありがとうございます。」

感謝



小林 聖

昨年度、郡山JCに入会し今年度で卒業することとなりました。短い期間でしたが、JCでの出会いと学びの機会に感謝の気持ちで一杯です。

参加が制約された中でも、お会いした皆様との交流やJC活動から得た知識は、私にとって貴重なものとなりました。お互いに刺激を受け、新たな視点を得ることができ、その中で学びが私の成長に繋がりました。

中々参加が叶わないことも多々ある中でも、いつも暖かく迎え入れ理解を示してくれたJCメンバーの皆様には本当にお世話になりました。その温かさや協力の意志に心より感謝しています。

卒業を迎える今、JCでの経験が私の人生においても大きな意味を持っています。これからもJCの理念を胸に、地域社会への貢献や協力の機会を追求し、お互いにサポートし合いながら成長していけるよう努力していきます。

感謝の気持ちを忘れず、これからも皆様との繋がりを大切に、郡山JCで得た経験を未来に活かしていきたいと思えます。

本当にありがとうございました。

8/4(金) うねめまつり

八月四日(金)から五日(土)にかけて、奈良J.C.との交流会及びうねめまつり踊り流しが行われました。

四日のミスうねめパレードでは、芝田銀平理事長が葛城王の衣装をまといパレードに参加しました。



五日は郡山青年会議所の姉妹J.C.である(社)奈良青年会議所のメンバーが参加しました。まず、Best Tableにて昼食をとり、三万石にて絵馬体験を行いました。その後采女神社・王宮伊豆神社にて郡山の歴史に触れていただきました。

その後、うねめ祭の踊り流しに奈良青年会議所と郡山青年会議所が共に参加し、メンバー同士の親睦を一層深めることができました。

翌日六日のお見送りの際、九月に行われる奈良の「采女祭」にて再びお会いすることを固く誓い、散会となりました。



8/11(金)

わくわくチャレンジキャンプ

郡山自然の家にて「わくわくチャレンジキャンプ」が開催されました。一日目は、郡山自然の家にて入館式を行い、郡山市アメリカン・フットボールをお招きし、チャレンジスポーツ教室「フットボール体験」を行いました。炎天下の中、熱中症に注意しながら子どもだけではなく大人も混じりながら元気に走り回りました。その後、昼食を挟み、牡丹台球場にて福島レッドホープスの試合観戦並びにスポーツ交流を行いました。このファンクションでは、子どもたちが試合をする球場内で選手たちと同じくキャッチボールを行い、選手たちと触れ合いました。また、野球観戦をすることで目の前で行われるスポーツに子どもたちは目を輝かせていました。夕食後はキャンプファイヤーを行い、子どもたち同士、大自然に囲まれた中で交流を深める機会となりました。

二日目は、午前中に「チャレンジワールドワーク」と題し郡山自然の家内にある山の中でスコア・オリエンテーリングを行いました。八組の班に分かれエリアの中に設定されたポストを制限時間内に行けるだけ多く探しゴールを目指しました。子どもたちは互いに相談し合い、課題に挑むことで協調性や仲間意識を学ぶ機会となりました。その後、昼食をはさみ、チャレンジフィールドワーク「モルック体験」を福島県モルッククラブをお招きし行いま



した。モルックとは、老若男女問わず誰でも参加でき、ニュースポーツとして話題になっているスポーツで、子どもはもちろん私たち大人も触れたことのないスポーツに熱をもって参加しました。未知の体験を通して新たな価値に触れ、参加した子どもたちが未知のスポーツの魅力に気づき楽しんで参加しておりました。二日間における本事業の中で、参加した子どもたちは様々なスポーツや仲間と触れ合い、学びながら、仲間との絆を深めることができました。また、私たちが子どもたちのように初心を思い出しながら事業に参加することが出来ました。



8/25(金)

八月例会

八月二十五日、郡山市郡山公会堂にて「二〇二三年度八月例会」が開催されました。

芝田銀平理事長の理事長挨拶では、これまで実施された各種事業参加の感謝とともに、これから本格化する事業である「久米百合子賞」について触れ、六〇年以上続く事業への思いや現役会員への事業参加についてお話をいただきました。その後、各委員会より会務報告及び出向者より出向者報告があり、九月二日〜三日まで開催される東北青年フォーラムinきたかみなどについて、意識の共有が図られました。また、サマーコンファレンス二〇二三でブースを出展していた地球環境委員会に出向している久保田雄大君、土屋繁太郎君、菅洋滋朗君からは全国大会でもブースの出展が決まったと報告がありました。各委員会、出向者共に開催された事業への御礼やこれから始まる事業参加の依頼など、2023年度も最終局面へと差し掛かり、走り抜けるための活発な報告となりました。

八月度のフォトコンテストの結果が発表され、グッドスマイル賞 矢吹 瞬君 育LOM賞 久保田 雄大君 月間事業賞 渡邊 千代子君 特別賞 中嶋 拓歩君 が選ばれ、それぞれの受賞者に賞が贈られました。



9/1(金) 東北青年フォーラム inきたかみ

九月一日(金)から三日(日)まで、岩手県北上市にて(公社)日本青年会議所東北地区協議会主催による「二〇二二年度東北青年フォーラム in きたかみ」が開催されました。

今年「Next Innovation」思いやりの心溢れる未来を目指して「スローガンのもと、新たな気づきや学びの機会を通じて参加者の当事者意識の醸成を図り、地域を担う人材へと成長し続ける必要がある」というメッセージが力強く発信されました。

郡山青年会議所からは東北ゼミナール特別委員会に圓谷紀幸君、広報ブランドデザイン委員会に武田 淳君が委員として出向しております。

二日はオープニングセレモニー後にメインフォーラムが開催され、衆議院議員小泉進次郎氏が「リーダーに必要な言葉の力」想いは人を惹き付ける」というテーマで講演し、人の心を動かすリーダーに必要な言葉の力についてお話いただきました。その後キングコング西野亮廣氏の「夢を追い求める力」というテーマで講演が開催され、大きな夢を掲げ、様々な壁を乗り越え夢を叶えるためには夢を掲げるだけでなく、夢を叶えるために身



に付けるべき力について講演されました。同日にはゼミナール成果発表会と閉講式が行われ、東北ゼミナール特別委員会に出向している圓谷紀幸君が、学ぶ姿勢を忘れること無く熱心にゼミに参加し続け活躍している姿を見せてくれました。

9/20(水)

二〇二二年度九月例会・定時総会

九月二十日(水)、郡山ビューホテルアネックスにて公益社団法人郡山青年会議所二〇二二年度九月例会(定時総会)が開催されました。

二〇二四年度役員予定者の承認もあり、多くの会員メンバーやOB会会員の諸先輩方が集まりました。

例会では第六十三代理事長芝田銀平君より挨拶があり、各事業についてのお話と、青年会議所における経済についてのお話をされました。

青年会議所における経済については、日本青年会議所や当青年会議所発足当時の背景について思いをはせられ、現在人々の欲求は文化的欲求から改めて衣食住などの生理的な欲求へシフトしているのではないかと述べられました。そして子ども食堂やフードバンクなど市民が求めるものが変化している中、私たちも柔軟な運動の構築をしていきたいと会員に呼びかけられました。

会務報告では各委員長より事業の御礼や案内があり、各委員会の活動についてより理解の深まる報告がなされました。

出向者報告では日本青年会議所出向者から全国大会の案内、東北地区協議会出向者から東北青年フォーラムの御礼、福島ブロック協議会出向者から福島県の地宝のMIRYOKUフェスやJCカップの御礼があり、各出向者の活動について報告がありました。

定時総会ではOB会会長湯浅 大郎先輩よりご挨拶いただき、定時総会開催の祝辞と例会参加の感想を頂戴しました。その中でいくつになっても新鮮な気持ちで学ぶことができるの

三日にはAWARD TOHOKU 2023があり各地青年会議所からエントリーのあった優秀事業の褒賞が行なわれました。その後クロージングセレモニーが行われ、二〇二四年に青森県青森市にて東北青年フォーラムが行われることが発表されました。

は青年会議所の醍醐味だとの言葉をいただきました。

議事では議長渡邊千代子君と副議長土屋繁太郎君の進行のもと、二〇二二年度の補正予算定款改正、会員資格規則改正、役員報酬規則制定、二〇二四年度の役員、監事選任など、今後の郡山青年会議所を持続可能な組織としていくために重要な六議案が審議され、すべて可決承認されました。

総会の最後に二〇二四年度役員予定者が紹介され、二〇二四年度理事長予定者織田 陵平君より二〇二四年度役員並びに監事承認への謝辞と、次年度にかける想いや決意が述べられました。

二〇二三年度の残りの運動と、二〇二四年度の運動について意識を共有する大変有意義な例会・定時総会となりました。

なお、九月度のフォトコンテストはグッドスマイル賞 石黒 恵太郎君 育LOM賞 佐久間 悠治君 月間事業賞 菅 洋滋朗君が受賞しました。



9/29(金)

奈良公式訪問

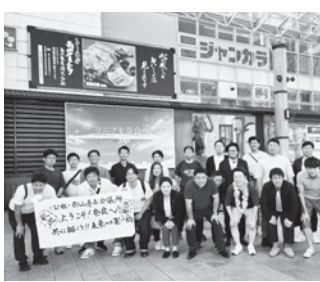
二〇二三年九月二十九日(金)〜三十日(土) 昨今のコロナ禍のため長らく訪問できずにいた姉妹都市である奈良市の采女祭に参加するため約四年ぶりに奈良市を訪問しました。



姉妹JCを締結している一般社団法人奈良青年会議所のメンバーにお出迎えいただき、エクスカージョンでは奈良でも古い歴史を持つ大安寺へご案内いただき、昼食では奈良青年会議所メンバーの特別にご配慮いただいたお弁当と地酒を振舞っていただきました。その後林神社へ赴き宮司様から郡山市との歴史的なお話をいただきました。

夕方からは太平衣装に着替え、市内を練り歩く花扇奉納行列に参加し、その後奈良青年会議所の宮下理事長とともに管弦船の儀に参加しました。花扇は管弦船から猿沢池に奉納され、多くの市民と共に采女への供養と鎮魂の祈りを捧げました。

采女祭後は奈良青年会議所のメンバーと交流を深め、変わらぬ友情をお互いに確かめあうことができました。



10/6(金)

二〇二三年度全国大会 in 東京

十月六日から十月八日まで東京都にて二〇二三年度全国大会 in 東京が開催されました。

今年度の全国大会は、開催テーマに「Bridge over the dreams」を掲げ、全国各地で夢を描き展開されてきた運動を次年度へ継承し、二〇二四年度以降に夢をつなげる懸け橋となる大会とすることを旨として開催されました。



初日は開会式・オープニングセレモニー共に東京ビックサイトにて開催され、芝田理事長をはじめとする多くのメンバーで参加し、東京大会ならではの空気を体感しました。

また、その後郡山青年会議所から、日本青年会議所地球環境委員会へ副委員



長 久保田雄大君、小幹事 土屋繁太郎君、委員 菅洋滋朗君が出向しているため委員会訪問をさせて頂きました。

二日目は国家フォーラム・国際フォーラム・主管フォーラムが同会場東京ビックサイトに催されました。

国際フォーラムでは、アニメ「マクロス」シリーズの総監督である河森正治氏をお迎えし、本年度の国際グループが行ってきた運動の成果発信を織り交ぜながら、皆様に国際の機会について語られました。

国家フォーラムでは、「日本人の底力」をテーマに自由民主党副総裁で衆議院議員の麻生太郎氏をお招きし、日本人のもつ底力についてご講演いただき、「明るい未来の創造のために、私たちがもつと日本はいい国であると認めなければならぬ」という強いメッセージを会場にいる会員に向け語られていました。

その後、有明GYMEXにて大会式典と卒業式が執り行われました。卒業式では全国の総勢四、〇七九名の卒業生を代表して、日本青年会議所 監事 青木孝太君より「卒業生の誓いと贈る言葉」が贈られ、「言い訳をせず、目的意識をもって様々な挑戦をしてほしい」と熱く会場のメンバーを激励しました。

最終日はクロージングセレモニーと解団式が行われ、高い位置で次年度にバトンを渡せるよう最後まで全力で走り切りましょう」と熱く語られて三日間が終わりを迎えました。

全国大会を通して、日本という国に誇りを待てるような意味のある大会だと感じました。自分たちの国を好きになり誇れるということは、それを次世

10/19(木)

十月例会

十月十九日(木)、郡山市郡山公会堂にて「公益社団法人郡山青年会議所二〇二三年度十月例会」が開催されました。

理事長挨拶では、カーボンニュートラルについてお話がありました。カーボンニュートラルとは二酸化炭素の排出量を0にすることではなく、二酸化炭素の排出量と吸収量を均衡させることで実質0にすることで、と説明され、郡山青年会議所として市民一人ひとりがカーボンニュートラルに取り組む機会を作りたいと、熱く思いを述べられました。

その後、各委員会の会務報告や、各出向者からの出向者報告が行われました。十月度のフォトコンテストの結果が発表され、

代を担う子供たちに残し、教える育ていくことにもつながると感じることができ、実りある全国大会二〇二三となりました。



- グッドスマイル賞 柳沼 勝恵君
- 育LOM賞 渡邊 千代子君
- 月間事業賞 石黒 恵太郎君
- 特別賞 佐藤 広幸君
- 渡邊 みゆき君

が選ばれ、それぞれの受賞者に賞が贈られました。

本年度郡山市郡山公会堂で行う最後の例会となり、本年度の活動が終わりに近づくなか、残りの運動とこれからの活動に向けてメンバー全体の意識を高める会となりました。



10/22(日)

カーボンニュートラルエキスポinおりやま

十月二十二日(日)、JA福島さくら農産物直売所あぐりあ駐車場にて「カーボンニュートラルエキスポinおりやま」が開催されました。

郡山市が目指す「二〇五〇年二酸化炭素排出量実質ゼロ」の実現にむけ、市民の皆様にも再生可能エネルギーやカーボンニュートラルの具体的な取り組みを知っていただき、カーボンニュートラルをより身近に感じていただくべく、様々なブースや企画が行われました。

ステージではまず株式会社ラジオ福島様の「大和田新のラヂオ長屋」公開生放送が行われ、パーソナリティーに大和田新様、山田美紗子様、ゲストに鏡田辰也様をお呼びし、楽しい雰囲気の中ラジオ放送が進みました。

郡山青年会議所からも芝田理事長をはじめ、各委員会の委員長や副委員長が出演し、各委員会の活動について発信させていただきました。

その後、東北大学中田俊彦教授、おりやま広域圏地球温暖化防止センター長相楽昌男様、郡山女子大学の学生、あさか開成高校の学生によるパネルディスカッションが行われ、郡山市が持つカーボンニュートラルの可能性や各学校でのカーボンニュートラルへの取り組みについて発表されました。

パネルディスカッションの後は中田教授による講演会があり、住宅の複層ガラスや実際に教授が乗ってこられた電気自動車为例に、身近なカーボンニュートラル



ルの取り組みについてお話をいただきました。

出展ブースも多数あり、各ブースでは様々なカーボンニュートラルの取り組みについて学び、体験することができました。

三春VVO様のブースではどんぐりの苗木を配布し、育て方のレクチャーが行われました。

あさか開成高校様のブースでは古新聞を再利用し、エコバッグ作りが行われました。

株式会社福島地下開発様のブースでは自社で取り組む再生可能エネルギーの資料配布と説明が行われました。

郡山女子大学様のブースではどんぐりプロジェクトや地球温暖化について考える展示と、廃材に絵を書いて再利用する体験が行われました。



11/11(土) Clean My Town

十一月十一日(土)、郡山市商工会議所青年部(YEG)様の方々と同「Clean My Town」と称して、まちのクリーン運動を行いました。今回は初めての試みとして、郡山市商工会議所青年部(YEG)様との合同開催、また郡山駅前周辺と朝日町周辺の二か所同時のクリーン運動開催となりました。



当日は朝早くにもかかわらず、多くの会員メンバーが参加しゴミ拾いを行なうと共に、Fix My Street(道路の破損や街灯の故障、不法投棄などのまちの問題点を行政に報告し改善を求められるスマホアプリ)を活用することでまちの問題点を見つめ直す機会となりました。

した。郡山市環境政策課様のブースでは手動発電や太陽光発電でプラレールを走らせる体験と、郡山市の気候変動対策やゼロカーボンアクションについての展示が行われました。また、郡山市からは水素自動車の展示があり水素燃料についても学ぶことができました。幅広い年代の皆様にご参加いただき、二酸化炭素排出量の削減の具体的な取り組みについて知っていただくことで、自分達の気付きと学びにも繋げることが出来ました。

本事業を通して是非身近にできるカーボンニュートラルについて考えていただき、郡山市の「二〇五〇年二酸化炭素排出量実質ゼロ」実現の一助となれば幸いです。

当日ご協力いただきました関係者の皆様、足をお運びいただきました郡山市民の皆様、誠にありがとうございました。



10/21(土)

第六十二回「久米賞・百合子賞」最終審査会

十月二十一日(土)郡山市労働福祉会館大ホールにて第六十二回「久米賞・百合子賞」最終審査会が開催されました。

当日は審査員の皆様にお集まりいただき、一次審査ならびに二次審査を通過した優秀な応募作品の中から久米賞・百合子賞入賞作品を選出するために、小説部門と詩部門に分かれて審査が行われました。

学生ならではの観点から描かれた沢山の優秀な応募作品から入賞作品を選出する審査は大変な工程ではありましたが、新たな文学の芽に触れる貴重な機会となりました。



11/23(木)

十二月例会並びに 第六十二回「久米賞・百合子賞」授賞式・記念講演会



十一月二十三日(木)郡山市民プラザ七階大会議室にて十一月例会並びに第六十二回「久米賞・百合子賞」授賞式・記念講演会が開催されました。

十一月例会は十月末から十一月中に開催された事業を振り返り、理念に基づく運動の先に得られた共感について熱いメッセージを送りました。

また、会務報告、出向者報告にありメンバーからは各事業の御礼や一カ月間の報告があり、運動・活動への意識や事業への取り組みについてメンバー全員が共有できた例会となりました。

十一月度のフォトコンテストの結果が発表され、グッドスマイル賞 土屋 繁太郎君、育LOM賞 山本 将朗君、月間事業賞 菅 洋滋朗君、特別賞 石黒 恵太郎君が選ばれ、それぞれの受賞者に賞が贈られました。

十一月例会後には地球生物学者の稲垣 史生様(東北大学大学院理学研究科教授)を講師にお招きし講演会が開催されました。

近年激変している地球環境と人類の関わりについてご講演いただきました。

私たちはこの先どこに向かうべきかという地球上の誰しもが避けて通れない話題に、参加者全員が真剣に聞き入っていました。

講演会後は第六十二回「久米賞・百合子賞」授賞式が開催されました。授賞式では本年度受賞された生徒様の緊張している様子や時折見せる笑顔、保護者の皆様の喜びを感じる授賞式となりました。

ご来賓として郡山市教育委員会教育長 小野 義明様、郡山市中学校校長 会合長 早坂 保夫様、郡山市PTA連合会会合長 橋本 洋介様をお招きし、ご祝辞を頂戴しました。

ご祝辞では、受賞者の生徒様がこれまで積み上げてきた努力や悩みを労いながらお祝いの言葉を述べられました。

大盛況のうちに終わった授賞式・講演会から、次年度以降の更なる「久米賞・百合子賞」の発展につながることを確信できる事業となりました。



10/31(火)

YEG×JCC会談



十月三十一日(火)、公益社団法人郡山青年会議所事務局にて「YEG×JCC会談」が行われました。

郡山市商工会議所青年部会合長 吉田一成様、次期会合長予定者 高橋晋也様、郡山青年会議所理事長 芝田銀平君、次年度理事長予定者 織田陵平君の四名で五つのテーマのもと、活動内容や体制が違うなかそれぞれが郡山のまちをより良くするためにはどうすればいいかを真剣に話し合いを行いました。

両団体の異なる点も踏まえながらお互いの事業や理念・理想を語り合い、とても実りある会談となりました。

会談内容は特設ページにてご紹介しておりますのでQRコードからご確認くださいだけばと思います。



会談QRコード

皆様の声を聞かせて!!

私たちはこれまでに様々な広報誌を発刊してまいりました。今後、今以上にこの広報誌を盛り上げ、私たちの事業運動・活動を知っていただきたく存じます。そのために、今後私たちの運動・活動の参考とするべくアンケートを実施させていただきますこととなりました。

大変お手数なことかもしれませんが、アンケートの記入にご協力をいただければ幸いです。どうぞよろしくお願いいたします。

広報渉外委員会 委員長 堀川 武尊

是非フォロー&ご一読よろしくお願いたします。



アンケートQRコード

編集後記

まず、二〇二三年度広報誌「Plus alpha」を二年間ご愛読いただきまして誠にありがとうございました。今年は笑顔を届けてそのまた向こうで笑顔を創れるようにしたい！をテーマに郡山青年会議所の魅力を発信し、郡山市民の皆様との架け橋になれるよう心掛けた広報誌の発行に邁進して参りました。

新型コロナウイルスも落ち着きを見せ、二〇二〇年以前のように多くの事業が開催されました。SNSや本誌で開催された事業を紹介させていただくことで広く運動・活動を発信するための機会となったのではないかと思います。本年度の良い部分、そして反省点といった経験をしっかりと二〇二四年度に引き継ぎ、今後も郡山青年会議所の運動・活動を発信してまいりますので、引き続き何卒ご愛読いただきますようよろしくお願い申し上げます。二年間、ありがとうございました。

広報渉外委員会 委員長 堀川武尊